

平成30年中における自殺の状況

平成31年3月28日

厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室
警察庁生活安全局生活安全企画課

平成30年中における自殺の状況 目次

第1章	平成30年中における自殺の概況	1
第2章	平成30年中における自殺の概要	20
第3章	平成30年における自殺の内訳	22
	自殺者の年次比較（表1～表4）	23
	年齢階級別、原因・動機別自殺者数（表5）	25
	職業別、原因・動機別自殺者数（表6）	26
	年齢階級別、職業別自殺者数（表7）	27
	都道府県別自殺者数（表8～表12）	28
	年次別自殺者数（補表1-1）	33
	年齢階級別自殺者数の推移（補表2-1）	34
	年齢階級別自殺死亡率（補表2-2）	35
	職業別自殺者数（補表3-1）	36

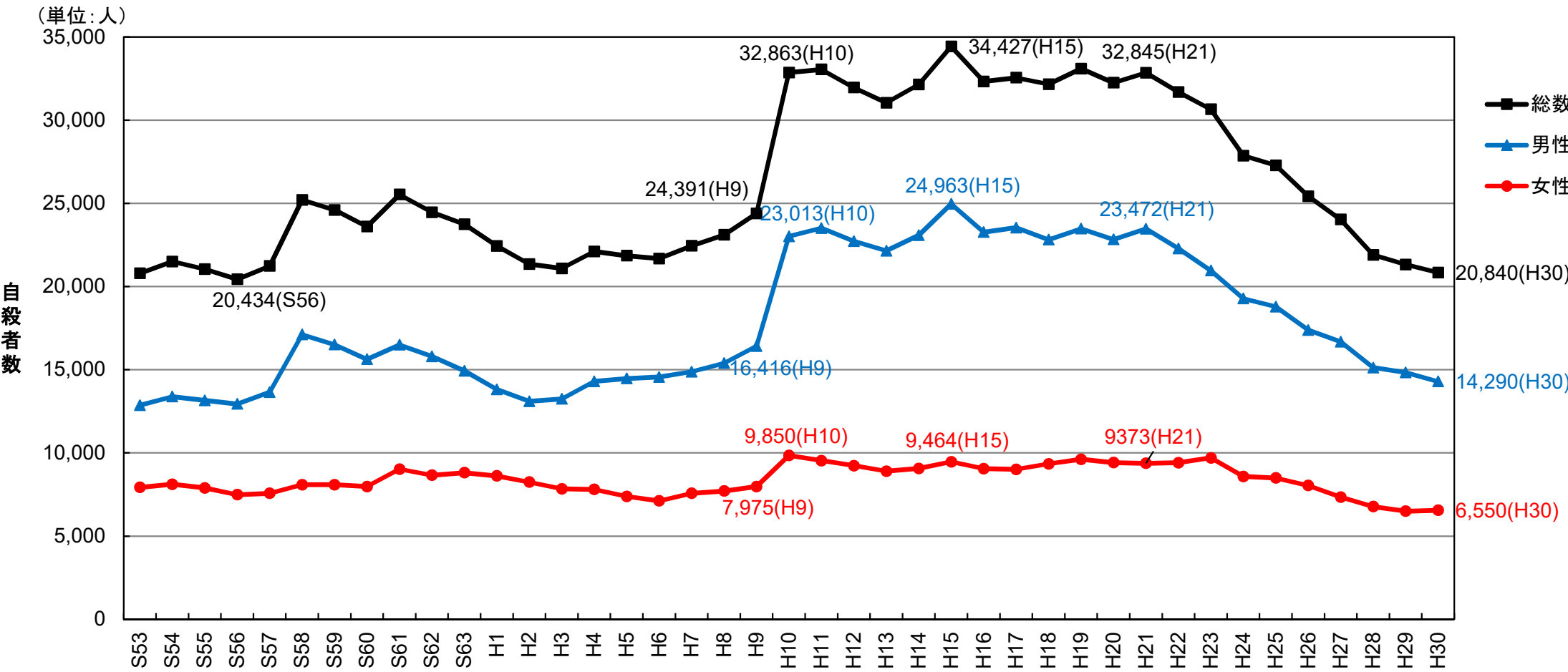
第1章

平成30年中における自殺の概況

自殺者数の年次推移

○平成30年の自殺者数は20,840人となり、対前年比481人(約2.3%)減。平成22年以降、9年連続の減少となり、昭和56年以来、37年ぶりに2万1,000人を下回った。

○男女別にみると、男性は9年連続の減少となった。一方、前年過去最少だった女性の自殺者数は、55人の増加となった。また、男性の自殺者数は、女性の約2.2倍となっている(男性68.6%、女性31.4%)。

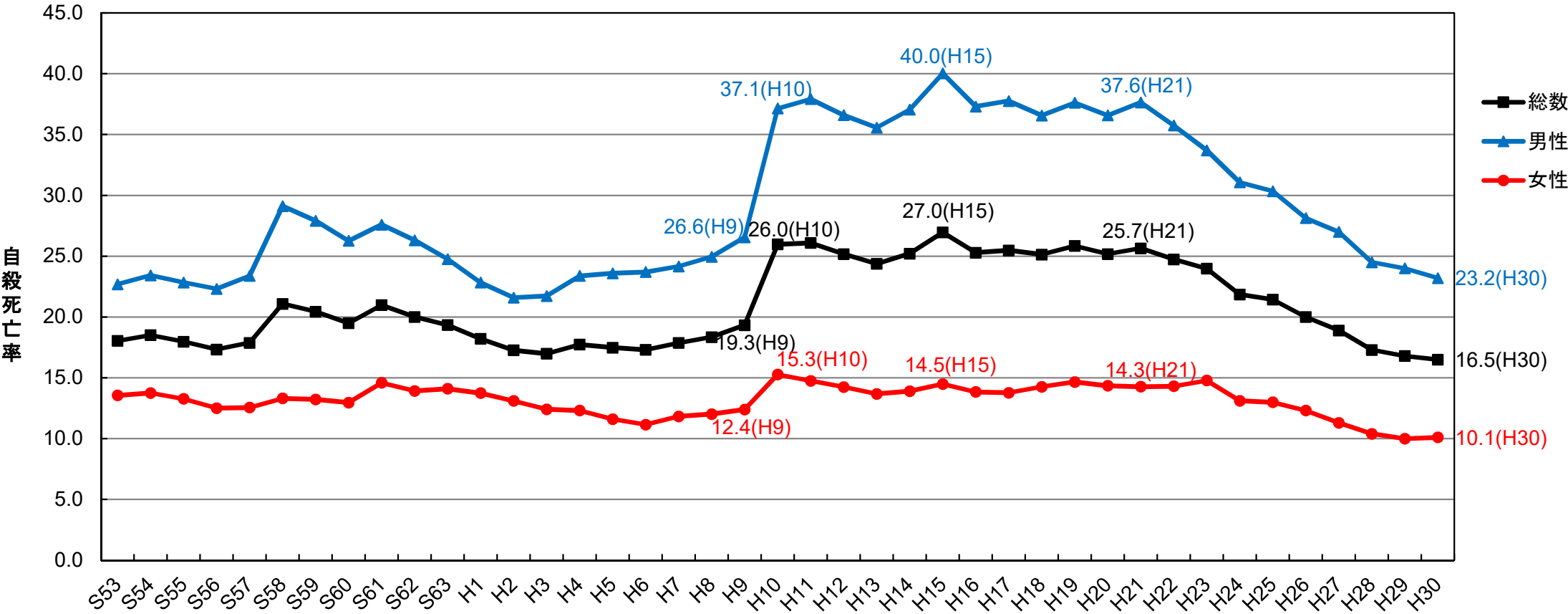


資料:警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺死亡率の年次推移

○平成30年の自殺死亡率は16.5となり、平成22年以降、9年連続の低下となっている。また、昭和53年から始めた自殺統計で過去最小となった。

○男女別にみると、男性は9年連続で低下し、女性是对前年比0.1上昇。また、男性は、女性の約2.3倍となっている。



注)「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺者数をいう。

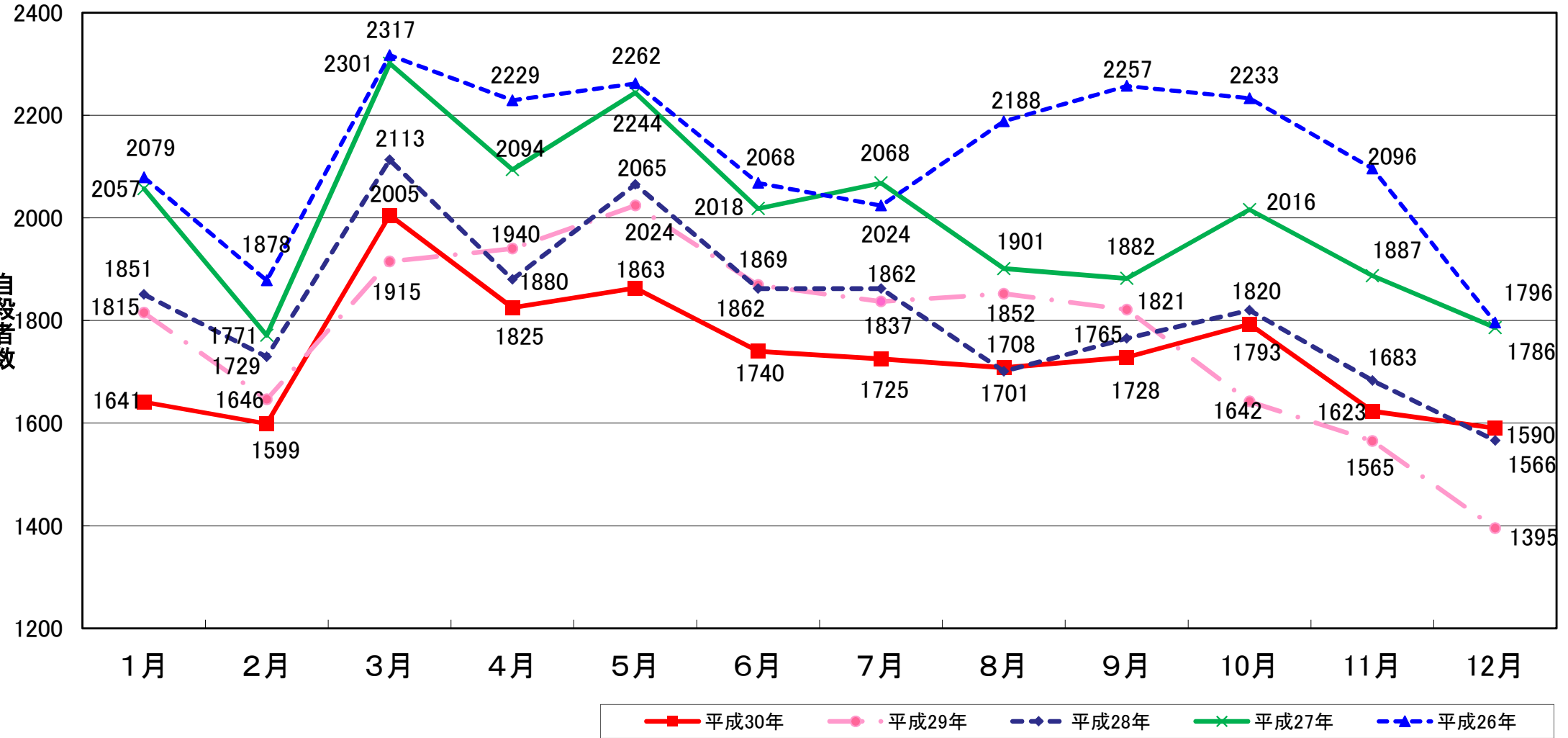
資料: 警察庁自殺統計原票データ、総務省「国勢調査」及び「人口推計」より厚生労働省作成

月別自殺者数の推移

○平成30年は、3月が最も多く、12月が最も少ない。

○平成30年は、3、10～12月で前年を上回り、1、2、4～9月で前年を下回った。

(単位: 人)

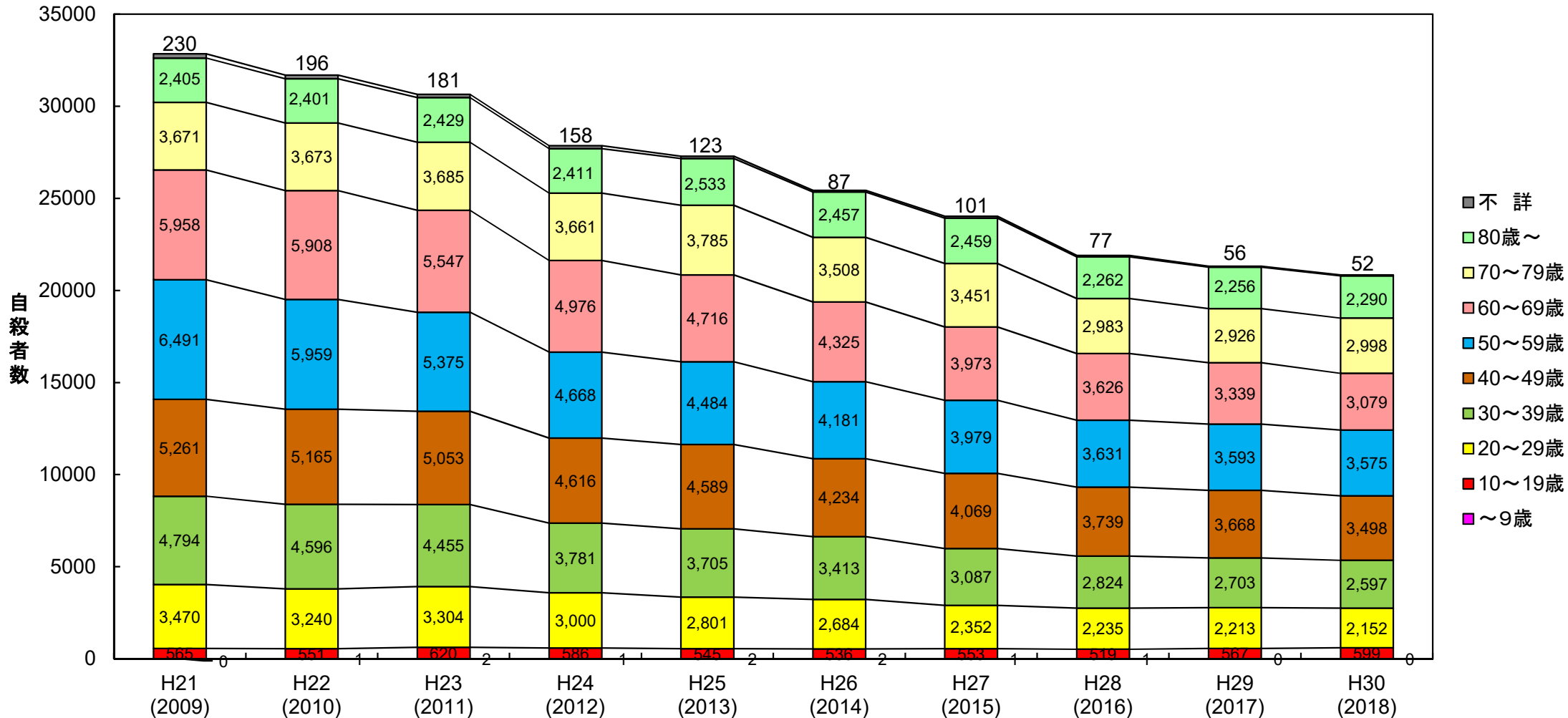


年齢階級別自殺者数の年次推移

○平成30年は29年と比較して、10歳代、70歳代及び80歳以上では前年より増加し、それ以外の年齢階級では減少した。30歳代は平成20年から10年連続、40歳代、50歳代及び60歳代は9年連続で減少した。

○平成30年は29年と比較して、60歳代が最も大きく減少し、260人の減少となった。

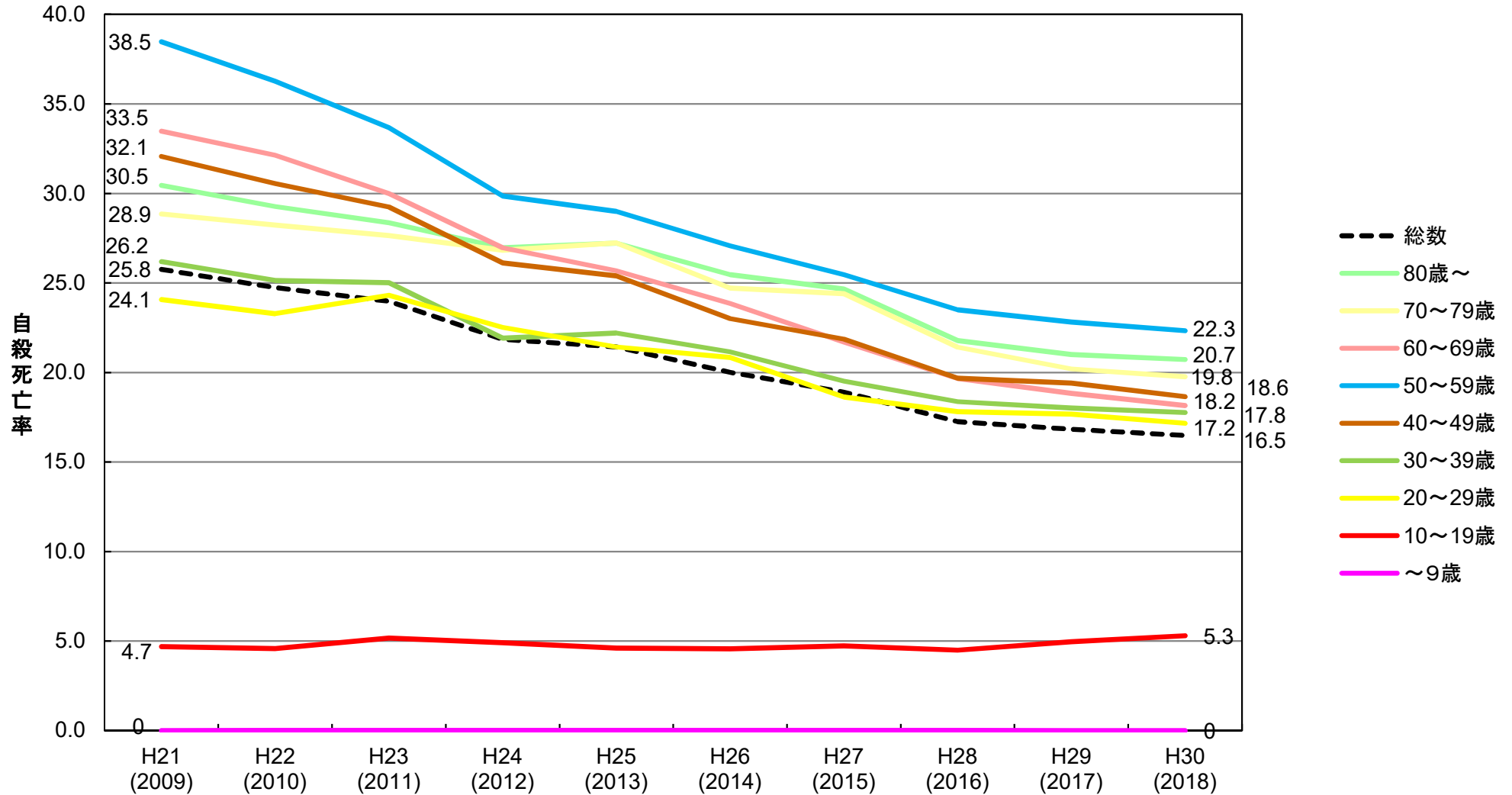
(単位:人)



年齢階級別自殺死亡率の年次推移

○平成30年は29年と比較して、10歳代を除き、各年齢階級で低下した。

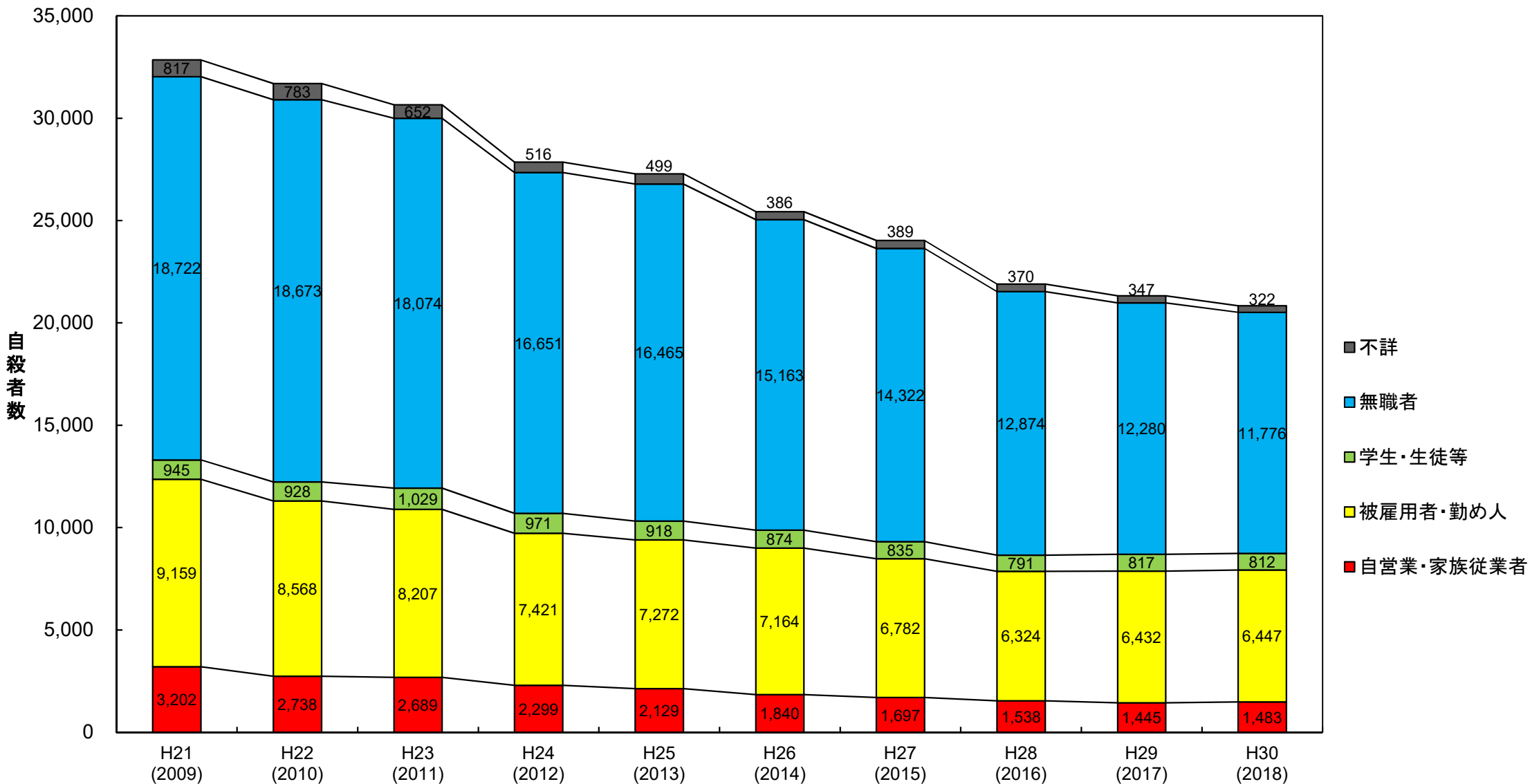
○60歳代は平成19年から11年連続、40歳代及び50歳代は9年連続、20歳代は7年連続、30歳代、70歳代及び80歳以上は5年連続で低下した。



職業別自殺者数の年次推移

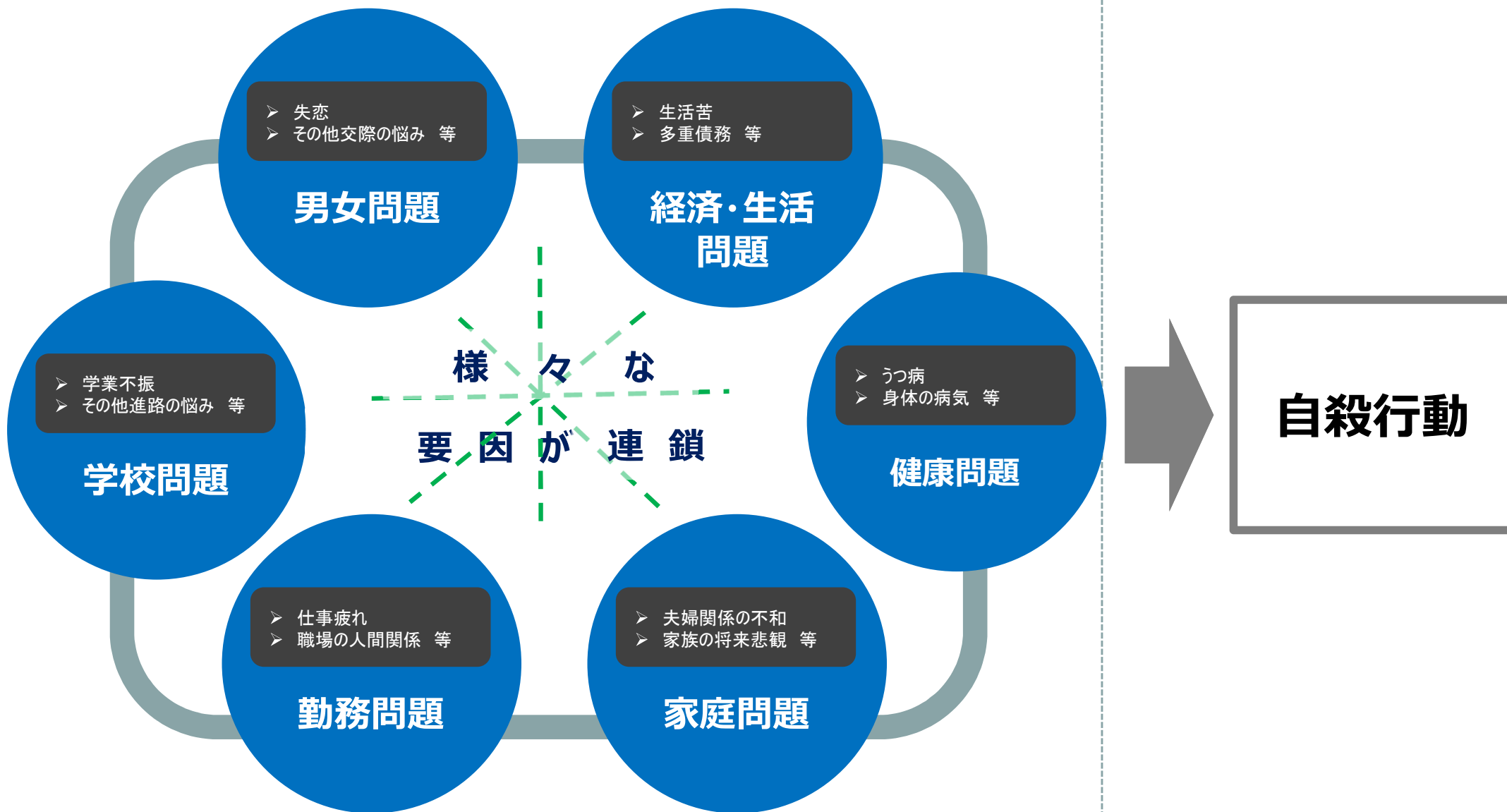
○平成30年は29年と比較して、無職者が最も大きく減少し、504人の減少となった。

(単位:人)



自殺の原因・背景について

➤ 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
(「経済・生活問題」や「家庭問題」等、他の問題が深刻化する中で、これらと連鎖して、うつ病等の「健康問題」が生ずる等)



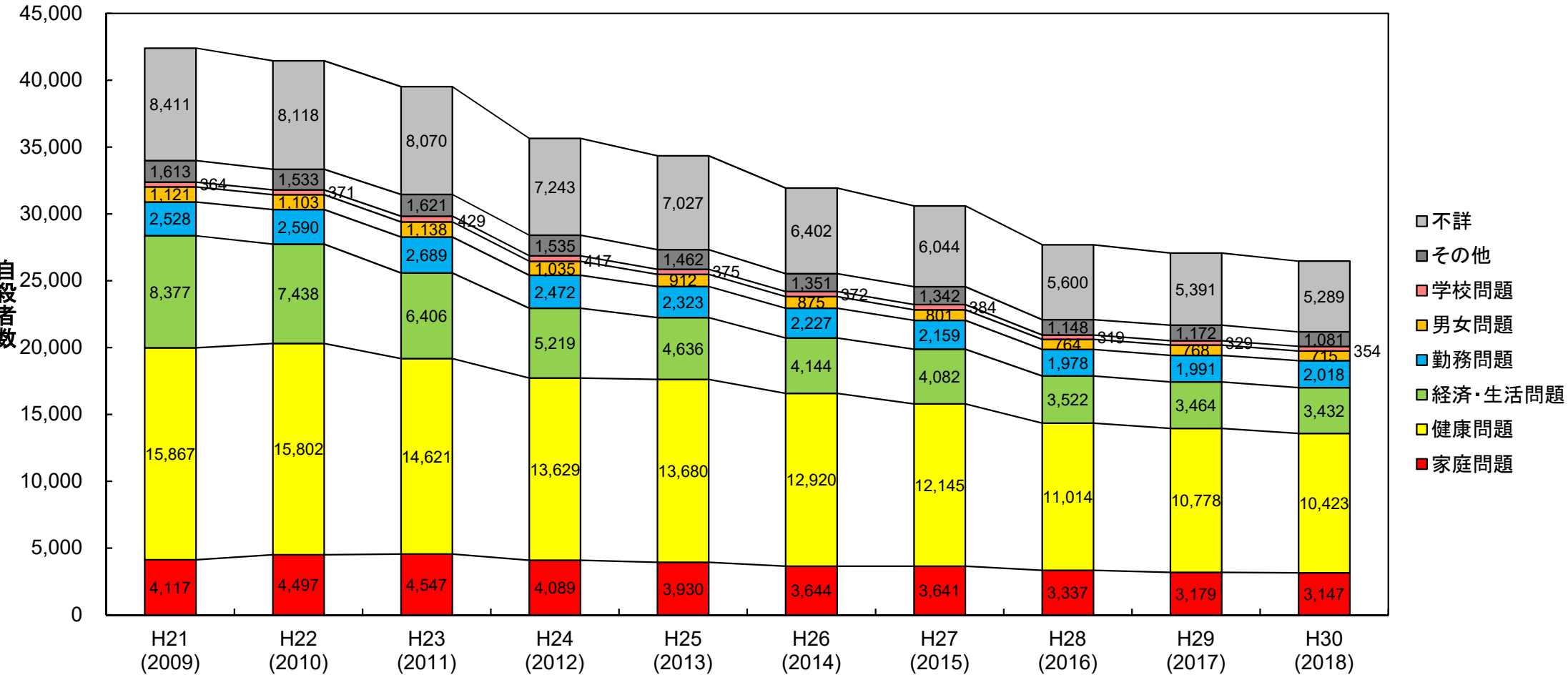
自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有している

(出典) 警察庁自殺統計原票より厚生労働省作成

自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移

- 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
- 個々の要因別にみると、経済・生活問題は9年連続、家庭問題は7年連続、健康問題は5年連続で減少した。
- 平成30年は29年と比較して、健康問題が最も大きく減少し、355人の減少となった。

(単位:人)



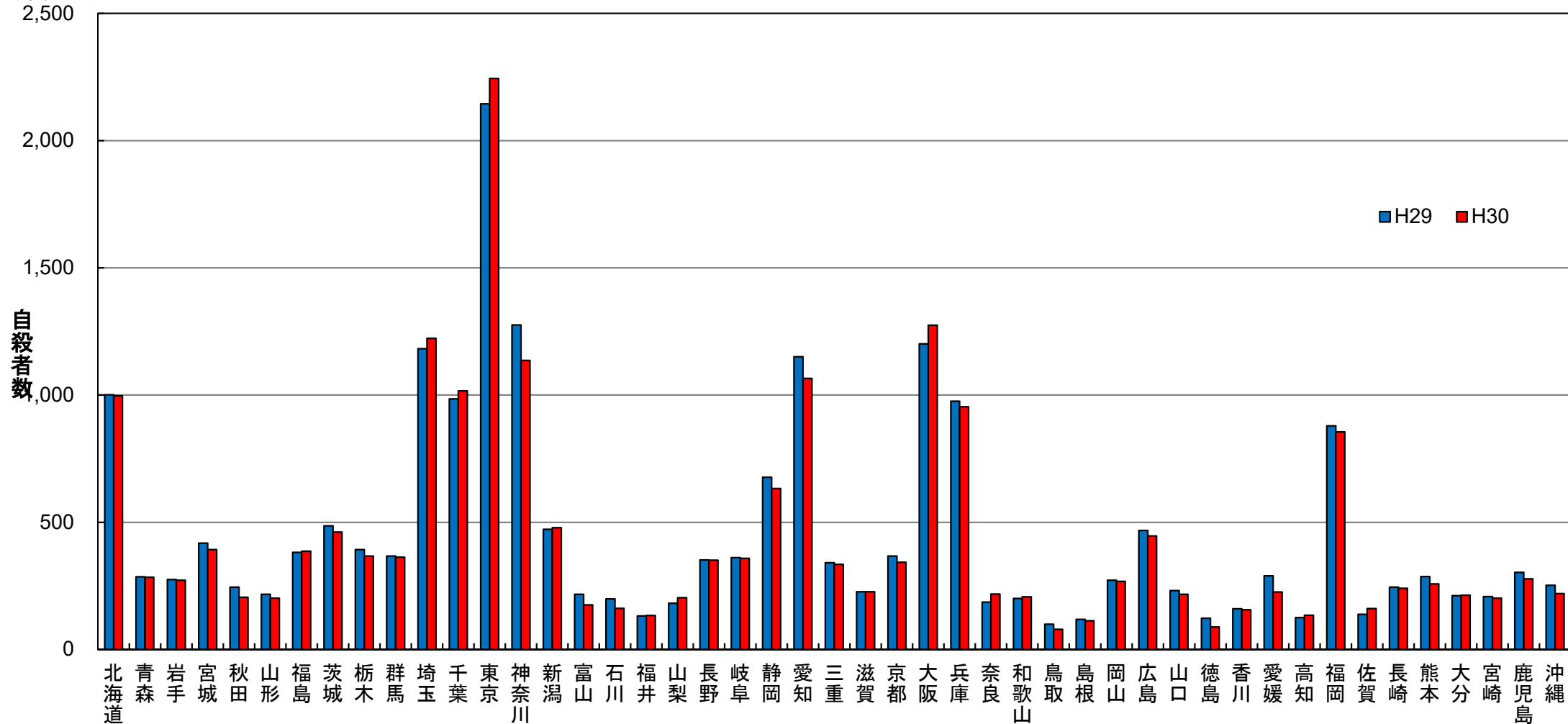
注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としている。

平成29年及び30年における都道府県別の年間自殺者数

○平成30年は29年と比較して、33道府県で減少、13都府県で増加、1県で横ばいとなった。

○減少幅が最も大きかったのは神奈川県で140人、次いで愛知県で85人、愛媛県で64人の減少となった。

(単位:人)

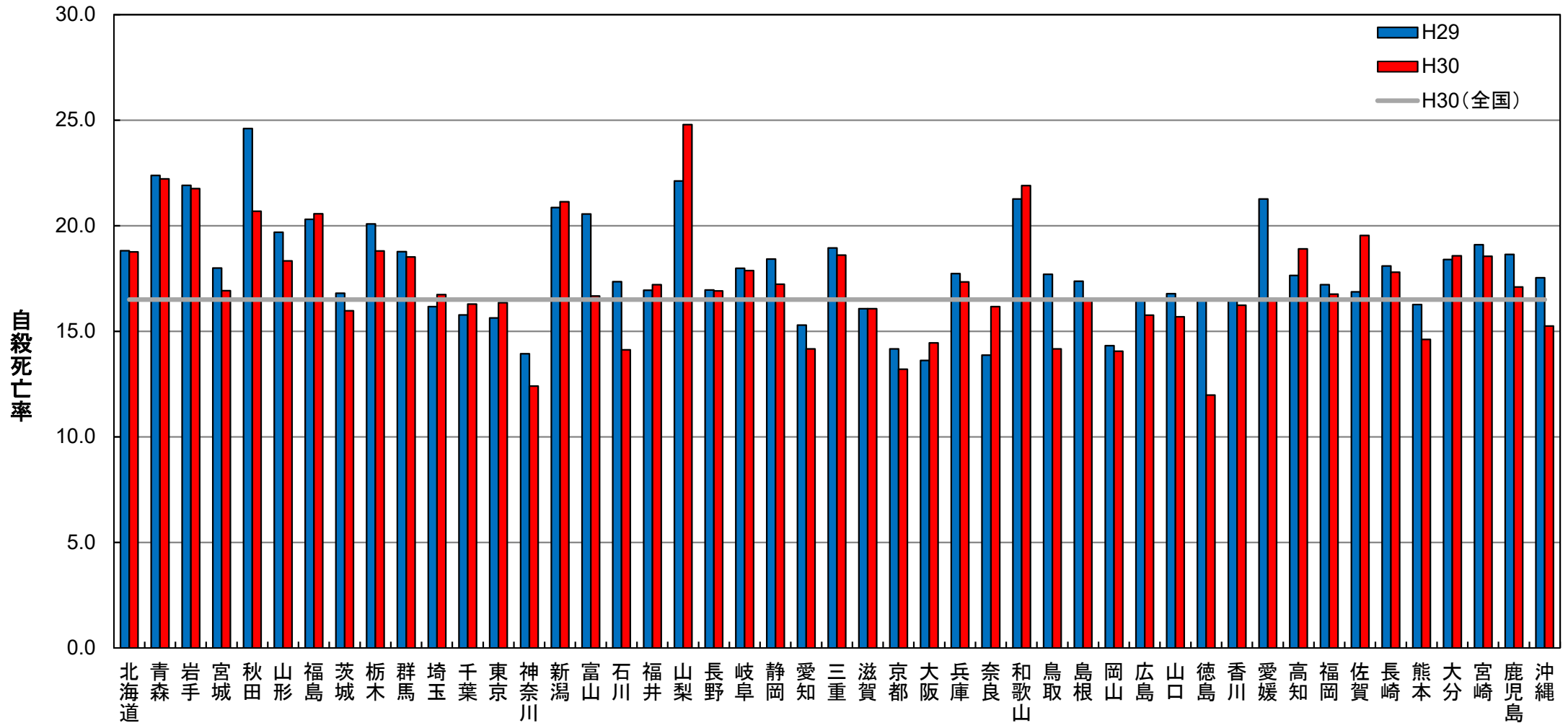


注:本統計は、自殺の発生地における計上であり、自殺者の居住地とは異なる。

平成29年及び30年における都道府県別の年間自殺死亡率

○平成30年は29年と比較して、33道府県で低下、13都府県で上昇、1県で横ばいとなった。

○自殺死亡率が最も低かったのは徳島県で12.0、次いで神奈川県で12.4、京都府で13.2の順となった。



注：本統計は、自殺の発生地における計上であり、自殺者の居住地とは異なる。

資料：警察庁自殺統計原票データ及び総務省「人口推計(平成29年10月1日現在)」(平成30年4月13日公表)より厚生労働省作成

東日本大震災に関連する自殺者数

1. 全国合計及び男女別

	合計	男	女
平成23年	55	42	13
平成24年	24	18	6
平成25年	38	23	15
平成26年	22	11	11
平成27年	23	13	10
平成28年	22	15	7
平成29年	26	17	9
平成30年	9	8	1
対前年差	-17	-9	-8

2. 年齢（10歳階級）別

	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上	不詳
平成23年	1	4	4	4	11	19	7	5	0
平成24年	0	2	4	3	5	5	2	3	0
平成25年	0	4	3	6	13	2	3	7	0
平成26年	1	1	1	4	5	7	2	1	0
平成27年	0	1	0	4	2	5	7	4	0
平成28年	0	1	5	4	4	5	2	1	0
平成29年	2	2	2	2	12	3	2	1	0
平成30年	0	1	1	1	1	0	3	2	0

3. 職業別

	自営業・ 家族従業者	被雇用・ 勤め人	計	学生・ 生徒等	無職						不詳
					小計	主婦	失業者	無職者			
								利子・配当家賃 等生活者	年金・雇用保険 等生活者	その他の無職 者	
平成23年	10	13	32	1	31	3	6	0	14	8	0
平成24年	3	5	16	0	16	0	3	0	7	6	0
平成25年	1	10	27	0	27	6	3	0	7	11	0
平成26年	1	3	18	1	17	3	1	0	6	7	0
平成27年	2	3	18	1	17	1	0	2	10	4	0
平成28年	1	8	13	0	13	2	3	0	7	1	0
平成29年	2	4	19	1	18	3	1	0	5	9	1
平成30年	0	2	7	0	7	0	0	0	4	3	0

4. 原因・動機別（複数選択可のため、合計しても上記全国合計等と一致しない場合がある）

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
平成23年	11	17	18	7	0	0	10	16
平成24年	5	11	5	2	0	0	4	5
平成25年	5	22	9	5	1	0	3	8
平成26年	5	11	3	2	1	0	1	6
平成27年	6	13	2	0	1	0	2	8
平成28年	5	13	4	4	1	0	3	5
平成29年	10	10	3	1	0	0	4	10
平成30年	1	5	3	2	0	0	1	3

5. 都道府県別

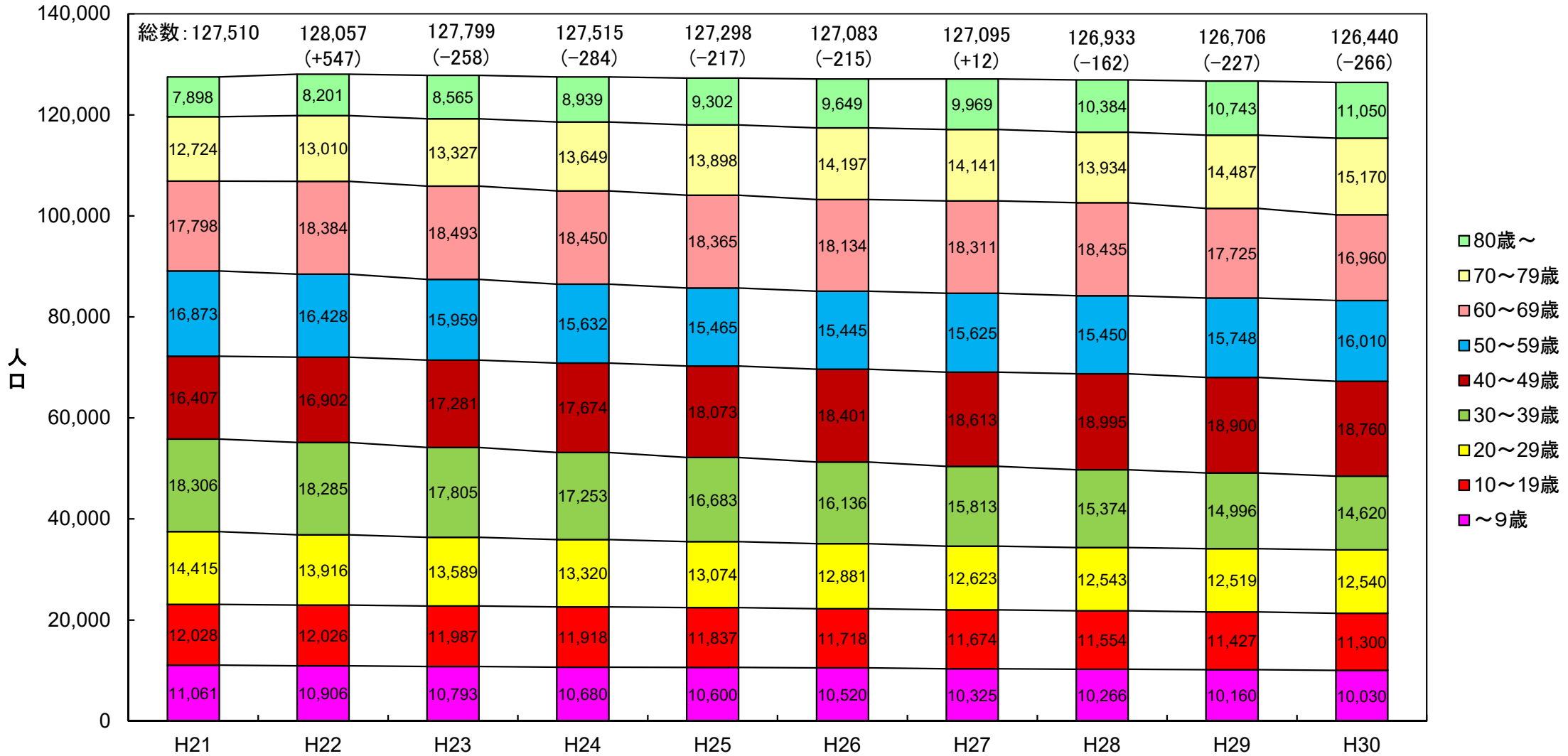
	岩手県	3県			茨城県	埼玉県	東京都	その他			大阪府	京都府
		宮城県	福島県					神奈川県	新潟県			
平成23年	17	22	10	1	1	2	1	0	0	1	0	
平成24年	8	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0	
平成25年	4	10	23	0	0	0	0	0	0	0	1	
平成26年	3	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	
平成27年	3	1	19	0	0	0	0	0	0	0	0	
平成28年	6	8	7	0	0	1	0	0	0	0	0	
平成29年	7	5	12	0	0	0	1	1	0	0	0	
平成30年	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
対前年差	-5	-2	-8	0	0	0	-1	-1	0	0	0	

注）平成23年の数字は、本自殺者数の計上を始めた6月から12月までを足しあげたもの。
また、平成24年から30年の数字は、1月から12月までを足しあげたもの。

(補表)

年齢階級別人口の年次推移

(単位:千人)



資料: 総務省「人口推計」及び「国勢調査」より厚生労働省作成